

(4) 研究開発単位Ⅳ（アクティブラーニングを取り入れた授業を実践するプログラム開発）

a 研究開発単位の目的、仮説との関係、期待される効果

研究開発単位の目的	調査・分析・ディスカッションなどをペアやグループで行わせることにより、能動的に学ぶ姿勢や、自らの強い意志を持ちつつ他者と協力して課題解決に取り組む姿勢を育成する。
仮説との関係	課題研究の中で実施する探究型・問題解決型・対話型・体験学習型・協働型の授業形態を、全教科の中に積極的に取り入れる。公開授業を実施して、教科の枠を越えた職員研修会等で授業方法等を研究し、改善していく。(仮説B)
期待される成果	本校が目指すグローバル人材育成に向けて、各教科がベクトルをあわせて知識・技能・マインドを養成することができる。また、スローガン、研究授業週間、ALを専門とする大学教員による講習会を開催することで、全職員が授業改革に向けて取り組むことができる。

b プログラム

(ア) AL授業週間2回（6月と10月）

(イ) 授業研究会と探究学習研修会

c 各プログラムの目的、方法、期待される成果、内容、成果（変更）

(ア) AL授業週間

対象学年	全学年（併設の中学校も含む）
実施期間	6月6日（木）～6月21日（金）、10月2日（水）～10月18日（金）
目的	全職員がAL型授業を実施し、生徒が能動的に学ぶ姿勢や、他者と協力して課題解決に取り組む姿勢を育成する。また、校種・教科の枠を越えて授業を参観し、授業後に意見交換を行うことで、教科横断的なカリキュラムマネジメント策定の一助とする。 <u>本年度は「論理」をテーマとし、課題研究における論理的な考察力や研究レポート作成能力を高めることをねらいとする。</u>
方法	①全職員がAL型授業を実施し、校種・教科を越えて参観する。 ②授業参観記録シートを活用し、授業者にフィードバックする。 ③各教科の代表者が研究授業を実施し、参観後は意見交換を行う。
期待される成果	AL型授業における本校のスローガン『ともに学び、自ら深める、』に基づいた授業を全員が実施することで、グローバル人材として身につけさせた資質・能力のうち批判的・論理的・創造的思考力を伸ばすことができる。

## 内容（これまでの経緯）

1年目となる平成28年度は、スローガン『ともに学び、自ら深める、』を決定し、そのもとで、「とにかくやってみる」をテーマに全員がAL型授業に挑戦することとした。年2回のAL週間と授業研究会を設定し、各教員の実践を進めた。

2年目となる平成29年度は、「発問を磨こう」をテーマに「内化→外化→内化」を意識しつつ、教科の特性を生かした発問を組み込んだAL型授業を実践し、長崎東版のAL型授業を完成させることを目指した。

3年目にあたる平成30年度は、2年目の実践の中で挙げられた課題の中で、第2内化の発問に焦点を当てて、研究を行うこととした。

この3年間はALの第一人者である京都大学の溝上慎一教授と、授業方法と授業評価を専門とする熊本大学（H28年度までは長崎大学に在籍）の川越明日香准教授に授業評価および本校AL型授業への指導助言をいただいていた。

本年度は「論理」をテーマとし、課題研究における論理的な考察力や研究レポート作成能力を高めることをねらいとした。

## 今年度における改善点

- ①テーマを「論理」とすることによって、AL型授業によって探究学習に必要な資質や能力を伸ばすことをねらいとした。具体的には1・2年生の研究レポート（日本語・英語）や発表会における論理的な表現方法、インタビューやアンケート等の情報を分析したり、実験結果を矛盾や飛躍がないよう考察したりまとめる力を伸ばすことを目標とした。
- ②授業参観者から授業担当者にフィードバックするために開発した「授業参観記録シート」を、今年度のキーワードに合わせる形で改定した。授業の参観者にとっては、授業参観時のポイントの目線合わせをすることができ、授業後の意見交換や、合評会における振り返りの円滑に行うことができた。
- ③AL型授業と課題研究の連動性を高めるために、宮崎県立五ヶ瀬中等学校にて探究学習を推進している上水陽一教諭を講師として招聘し、探究学習研修会を同日開催した。なお、他校教員へも案内し、県内外から17名が研修会に参加した。

## （イ）授業研究会と探究学習研修会

授業研究会	内容
第7回授業研究会 10月18日（金）	○研究授業1～4校時 9教科・10人の研究授業を実施 ○授業研究 5校時 ○探究学習研修会（職員研修、他校教員17名参加） 講師 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 上水陽一 教諭

## 成果（変容）

高校教員による自己評価

評価項目	H28	H29	H30	R1
授業改善や指導力向上に努めている	93.1%	98.1%	100%	98.1%
A L型授業に取り組んだ	88.0%	100%	100%	100%

高校生徒（全学年、SGH非対象生徒も含む）による自己評価

評価項目	H28	H29	H30	R1
学校の授業や学習指導に満足している	84.1%	90.8%	87.8%	91.2%

高校教員による上記自己評価は、非常に高いレベルで推移している。生徒自己評価も過去最高の数値となった。

本年度「論理」をテーマとしたA L型授業を展開した成果については、ベネッセコーポレーションが実施しているGPSテスト結果を分析し、研究開発完了報告書に記載した。

参考「授業参観記録シート」

授業参観記録シート

※記入後は、1枚を授業者に渡し、1枚を中央テーブル上の箱にご提出ください。

観察者氏名(所属)： 一ノ瀬憲二

(高)

日時/場所	令和元年 10月 15日(火) 3校時 2-2		
対象	高 2年 2組	教科	外国語
授業者	近藤先生	(科目)	(コミュI)
参観しての気づき	<p>・授業全体について【テーマ・目標の達成具合、授業の構成、授業者の工夫、生徒の様子等】</p> <p>○本時の2つの目標を達成するために、LRS(発表とやりとり)の活動と「問い」が有機的に関連された素晴らしい授業でした。</p> <p>○帯活動では、4人グループの1人がシンガポールについてプレゼンを行い、ほとんど2分以上話すことができていました。また、内容についてのQAでも積極的にグループ内でやりとりを継続できていました。</p> <p>○冒頭の単語推測ゲームに使用された6つの単語が、言語材料を正しく理解する上でのキーワードとなっていたため、学習者のLRによる理解にとっても効果的でした。&lt;supply, import, reservoir&gt;と&lt;demand, neighbor, two thirds&gt;を1度に投影した点も前年より改善されていました。</p> <p>○プレゼン後の全体質問、“What did you learn from the presentation?”によって「学びの共有」ができていました。</p> <p>○“How does Singapore solve its water problem?”を本文中より聞き取らせ、その問いへの解決策を3つ聞き取らせるペアワークによって、初見教材がリスニングで理解できるよう工夫されていました。</p> <p>○英語による生徒の回答を適時、近藤先生が正しい英語でパラフレーズしていたので、生徒は間違いを気にせず発表できていました。</p>		
	<p>・『論理』について</p> <p>○3つの英語の問いに日本語で答える点も内容理解に役立っていました。問いに答えていくことで論理的に読解(聴解)が進められていました。</p> <p>○Do you want to try to drink NEWater? Why or why not? What should we do to save water in our daily lives? という2つのオープンクエスチョンが素材そのものや今後の修学旅行とうまくマッチングして、生徒もよく意見を述べていました。「防災バッグ」という回答では論理が破綻することも、生徒の間違いをとおして学べていました。</p>		
Aレチェック	<p>■授業の冒頭で、「めあて(ゴール像)」が示された。 ■適宜、授業の「見通し」を生徒に示していた。</p> <p>■活動では生徒に時間を意識させていた。 ■生徒が安心して表現できる雰囲気づくりに努めていた。</p> <p>■生徒の発表は、全体に向けて行わせていた。 ■発表の際は、他の生徒に傾聴を意識させていた。</p> <p>□授業の最後で、生徒自身に振り返りをさせていた。</p>		

## 令和元年度前期 アクティブ・ラーニング週間について

1. 目的 「思考力・判断・表現力」を柱に、新たな時代に求められる資質・能力を、AL型授業の実践を通じて育成する。
2. テーマ 「論理」（「論理的に考える」、「論理的に話す」、「論理的に書く」など）
3. 期間 令和元年6月6日（木）～6月21日（金）
4. 実施内容
  - ①期間内にテーマを意識した授業を実施する。
  - ②最低1時間、他の先生の授業（他教科でも可）を見学する。
  - ③教科ごとに研究授業を設定し、授業を調整して各教科の教員全員で見学する。（②とは別）
  - ④③の授業研究の時間を設定し、実施する。
  - ⑤④の授業研究で今回の授業を振り返り、教科ごとに10月に実施する第7回授業研究会時に取り組むべき内容を決定する。（「振り返りシート」を作成する予定。）
5. その他
  - ①各教科で、テーマにそって小テーマ（主として取り組むべき内容）を決定し、図書・研修部（黒田）までご連絡ください。（テーマ「論理」で実施しにくい教科につきましては、教科の特性を生かしたテーマを決定してください。）
  - ②各教科で、研究授業実施者と実施日並びにクラスを決定し、同じく図書・研修部までご連絡ください。

## 令和元年度後期 アクティブ・ラーニング週間について

1. 目的 「思考力・判断・表現力」を柱に、新たな時代に求められる資質・能力を、AL型授業の実践を通じて育成する。
2. テーマ
  - ・「論理」（「論理的に考える」、「論理的に話す」、「論理的に書く」など）
  - ・生徒の「思考の活性化」
3. 期間 令和元年10月2日（水）～10月18日（金）
4. 実施内容
  - ①期間内にテーマを意識した授業を実施する。
  - ②最低1時間、他の先生の授業（他教科でも可）を見学する。
  - ③最終日（10/18）に教科ごとに研究授業を設定し、授業を調整して各教科の教員全員で見学する。  
（②とは別）
    - ・③の授業研究の時間を設定し、実施する。
    - ・「探究学習」についての講演（講師：上水陽一先生 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校教諭）
5. その他
  - ①各教科で、テーマにそった授業を展開してください。
  - ②各教科で、研究授業実施者と実施日並びにクラスを決定し、同じく図書・研修部までご連絡ください。

長崎東中学校・長崎東高等学校 第7回授業研究会

1 目的 「思考力・判断力・表現力」を柱に、新たな時代に求められる資質・能力を、AL型授業の実践を通じて育成する。

2 日時 令和元年10月18日(金)〔第7回アクティブラーニング週間:10/2(水)~10/18(金)〕

3 日程 8:40~9:30 研究授業①  
 9:40~10:30 研究授業②  
 10:40~11:30 研究授業③  
 11:40~12:30 研究授業④  
 昼 休 み  
 13:15~14:15 授業研究  
 14:15~14:30 掃除  
 14:35~14:40 SHR  
 14:40~15:00 外部参加者受付  
 15:00~16:00 探究学習研修会 (会議室)  
 16:00~17:00 質疑応答・情報交換 (※必要な先生のみ)

※朝読書あり。授業は、中学校、高校4校時までで終了とし、授業研究時は自学とする。終了後、SHR、放課。

4 「探究学習」講師 上水 陽一 先生 (宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校教諭)

5 公開授業時間割及び授業者

※今後、各教科にお願いして決定する。

校 時	授業者	教科・科目	クラス	教室
1校時	木下	コミュ1	高1年1組	高1年1組
	寺田	数学	高2年3、4組	2年3組
2校時	神原	地理	高2年1、2組	2年1組
	海邊	古典	高2年4組	高2年4組
	丸田	理科	中3年3組	中3年3組
3校時	森	道徳	中2年3組	中2年3組
	田中正	化学基礎	高1年6組	高1年6組
4校時	柿木	国語	中1年3組	中1年3組
	正林・吉田	英語	中1年1組	中1年1組

6 授業研究、時間と場所

時間	教科	場所
13:15	国語	会議室 A・B
~	数学	
14:15	英語	

時間	教科	場所
13:15	理科	会議室 C・D
14:15	地・歴・公	
13:45	道徳	

2019

WORKSHEET for 3-7

目標 (Can-do)

- (1) パートナーと協力して、論理的な対話を完成させることができる (R)
- (2) 話者の心情を推察して、なめらかに対話形式の音読ができる (LSR)
- (3) 「対比」表現を用いて、条件に応じた発話ができる (50 words / min. S)
- (4) 「対比」表現を用いて、条件に応じたメールの返信が書ける。(W)

★0 論理的な段落にするために取り除いた方がよいセンテンスはどれ？

2014 本試

Which do you prefer, living in the country or in the city? ① According to a United Nations survey, half of the seven billion people on this planet are living in the countryside. However, more and more people are moving into urban areas. ② It is estimated that about two thirds of the world's population will live in cities within the next 35 years. ③ Living in a city apartment is convenient but sometimes lonely. ④ Cities are likely to be too crowded and become very difficult places to live. Having said that, due to recent population trends, we soon may not have a choice about where to live.

★1 空所に入れるのに①と②のどちらが適切ですか？ その理由は？

2016 センター本試 改題

A: Sometimes I feel that I am not a very good musician.

B: Come on! ( )

- ① No one is more talented than you.
- ② You are the most talented in all the other people.

★2 空所に入れるのに①～④のうちどれが適切ですか？

2016 センター追試

A: Did you see Jim Black's latest movie?

B: Yes, I did. The story was outstanding, but...

A: What was wrong?

B: Well, his acting was ( ). I can't believe that the studio cast him in that role.

A: That's a shame.

- ① anything but excellent
- ② far from unacceptable



③ unexpectedly wonderful

④ well above average

★3 空所に①～④の発話を入れて、論理的な対話を完成させなさい。

2016 センター本試 改題

A: Did you do the English homework? It was difficult, wasn't it?

B: ( )

A: ( )

B: ( )

A: ( )

① Don't give up. You need to pass English, right?

② Oh! I totally forgot about it.

③ There's little point in even trying. It'd be a waste of time.

④ You can do it during lunch time.

★4 条件に応じて、1分間でできるだけ多く話しなさい。

S 70 words or more

A 60 words or more

B 50 words or more ← 合格!

メモ

★5 You have received a following email from your Chinese friend who lives in Osaka.

Write an email to Chan

Dear ○○,

I have a great news!

I am now planning to visit you in Nagasaki for two days next month.

I will stay at a hotel close to Nagasaki Station from July 10-12.

I'm just wondering which means of transportation to use, a Shinkansen or an airplane. Please give me some information and suggestion.

Best,

Chan